



俄羅斯紀聞二集

五

屬附學大田稻早  
館書圖

寄第川田氏寄館

654

第 20

第 1

出帶許不外

ル 8  
2994  
15





俄羅斯紀聞二集

第五冊

邊策私辨全

陷北聞見錄

蝦夷陣中日記鈔

骨董錄

西洋水戰聞略附

文化戊寅英機船繫泊記



門ル 87  
號 3038  
卷 15

ル 8 特  
2994  
15

治政...  
...  
...

邊策私辨序

不有... 風... 夜...  
... 生... 質...  
... 思... 報...  
... 頃... 日... 常... 大... 故...  
... 德... 生... 中... 井... 徒... 三... 治... 以... 一... 一... 離... 美... の... 消... 失... 之... 志...





中しつづ。此文を閲しし事あり。此中井生  
なる者ハ文學ヲ好み、頗ることえたるものあり、  
今此書を讀むに、其識見を、狭くして、御稿の  
至りし處へし、これより、是る事には、殺之と事  
あり、あつて、是れを、なれば、中井生に、  
文學より、長し、と、傳ふ、異國の、表、然、我  
邦の、此地、いひ、より、よ、の、心、得、生、と、名、別、何、事、  
成、果、と、よ、の、後、より、出、る、福、を、れ、なり、ま、れ  
と、ま、より、其、地、理、と、い、譯、せ、れ、其、の、事、信、と、  
知、る、る、也、る、れ、今、成、る、事、ハ、俗、の、世、名、  
志、の、尺、な、り、少、能、る、と、し、よ、の、と、其、事、實、成、  
論、と、く、其、意、心、を、解、ん、事、を、欲、と、い、つ、て、  
と、中、井、生、對、し、譯、正、を、し、と、い、つ、て、  
殊、に、慢、り、母、何、と、い、つ、と、い、譯、正、の、後、は、  
只、然、し、と、い、ん、事、と、い、つ、今、れ、と、い、つ、世、の、書、を、  
見、ん、と、い、の、也、ハ、意、心、を、生、せ、ん、と、い、つ、と、い、  
り、實、事、ハ、其、事、實、の、得、失、を、傳、し、記、し、と、い、つ、  
と、い、つ、と、い、の、な、り、し、  
享和三年、冬、亥、冬、藤、原



正養識

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

邊策私議

往古中興外國を日本より犯す事此時の有  
しとていふ事多し若し冠世の事あり日本雜  
しとて時變は何れ事終るに海を渡りて  
今仰のかゝる事あり元工に下りて一旦東  
寇を止む事に颶風少阿ひて大軍海に渡  
元より後年の戒なりて再舉ふ及んて朝鮮  
近しとては皇后太后に正代おたしるあり  
ありと終るに東南洋海限りありし西の三百



甲の遠海東に朝鮮ありて其の東に

**韓** 日本離島ありて外ありて其を言はば

としか先倭島の第一ありて治め初を之れ

まといよ聖言ありて其を言はば

るる下し今あるを其を言はば

我 邦と海中の諸國ありては

魚のこし本馬やりの世祖ありて元の大常の東寇せし

あかく魚成るんまきかあしし徳をよむ西

韃靼の蒙古ありて海を去るを回るる故海洋

の事を辨せし人漢おとる小まより海軍を疎れ

いへるれい海軍の事とよ辨へし人いへる

攻めふ故り颶風ありて一旦に敗軍あり

先朝の水軍より魚をえんとせしり

其切を遣へんやとせしり世に鴉ありて

何れい水中ありて又鴉ありてありて

り魚は言危くし我

邦ありし下り此鴉ありてありて

れある事なりとありてありて



の大軍を以て實成なき事々のに悦びて外  
國の憂なきとおとし彼魚の路に遇て彼り  
水に溺れし事々のにおどり鶺鴒の水に  
ある事々を志するか如し若鶺鴒遇て鶺鴒の  
まゝあつてえりてを慢る魚を危ぶる  
のかまふおなるとんをれ魚の身をも鶺鴒も備  
んより鶺鴒の害をゆるかす備を多しなると  
志すたし皇后大周朝鮮に伐の事、  
神代皇后三韓を攻取給ひしは彼を金銀  
貨財を多し故に我邦の利益をばんと  
謀りて返ふは事々成たり然り皇后の  
時在漢が三國の時より魏志より倭國女  
王の事見へりより唐の太宗高麗を  
攻むるはしゆり四百年の間に三韓とよ  
日本は屬後しり此より官人を多し治め  
給ひし事々新羅高麗を討ち報くといふ  
百濟を始めよる臣より事々入る國あり  
此印書の大なる成見よる豊臣氏の朝鮮を



正代せしむる莫大の賞用を蒙りし事あり其  
功を遂げしむる日らの瑞は何れ漢土光我  
邦を怖し交ひしむる豊臣氏朝鮮の役より  
一日前と利氏の末は何れつて曰く九州の海賊  
を侵すれしをよき大お憂ひ怖れし事なり  
彼海賊は漢土閩越の地ありし人民を  
侵掠し一若敵大軍あり出でて其れ船子乗  
り逃まり又備なきを窺ひて是を侵す如  
此なる事一數十年のつるなり明朝の人は  
り為す多くなやとされし事一はかありあ  
彼地より憂ひし事寇なれしはかあり  
我邦ありはかありは志なき事ありし事  
たは海賊せのなせし事ありし事ありし事  
自氏の武成彼海賊をおくりし事ありし事  
其に用ゆるおの計策を彼海賊おたしむる事  
ありし事ありし事ありし事我邦の魚よりお  
恐しむる海軍をもちし事ありし事ありし事  
上りて朝鮮よりお改する事ありし事ありし事

り為す多くなやとされし事一はかありあ  
彼地より憂ひし事寇なれしはかあり  
我邦ありはかありは志なき事ありし事  
たは海賊せのなせし事ありし事ありし事  
自氏の武成彼海賊をおくりし事ありし事  
其に用ゆるおの計策を彼海賊おたしむる事  
ありし事ありし事ありし事我邦の魚よりお  
恐しむる海軍をもちし事ありし事ありし事  
上りて朝鮮よりお改する事ありし事ありし事















雲のしるしひく水中の魚を物と物  
との差別をわきまへんはつらう  
の成りかたは解らんがなほし備へ  
ておぼえぬものも此物と物との差別を  
わきまへぬ洋海にわきまへぬ西はなるもの  
法阿らうと教へたるものもなほ  
未

○三石の庵をいふ地は洋性なちのち十石  
たらしぬ櫃を記さるる地とてソウヤとて厚太

のちとて十里洋地とは地徳同なりとて  
うらやまう地とてはわきまを冠するもの  
をうらやまう地とてわきまを冠するもの  
里掃して名を冠する地とて地とて  
只とて名を冠するもの  
南長とて名を冠する地とて地とて  
わきまを冠する地とて地とて  
わきまを冠する地とて地とて

辨 地とて名を冠する地とて地とて



と我々も一は信務の如く新の来  
好つての如くもつては物つては  
徳國の如くは使利の如くは物つては  
よ行つたはなるなるも地の如くは  
信の如くは信の如くは信の如くは  
力つては偏つては多つては多つては  
我々たる北はラロシヤの如くは  
いふ事つてはせしむる青徳の如くは  
度夫の如くは丹國の如くは人々

書紀 齊明天皇紀も毎信臣の如く  
信國の如くは信の如くは信の如くは  
いふ事つてはせしむる青徳の如くは  
るる國の如くは信の如くは信の如くは  
信の如くは信の如くは信の如くは  
リユスもいふは度夫の國の如くは  
我邦の如くは信の如くは信の如くは  
いふ事つてはせしむる青徳の如くは  
信の如くは信の如くは信の如くは



春番しく文也聖人の大國にうらうらと此國  
いふこと海賊のころはししと學士に  
つづるもの時り常々海賊のほは國結  
せしむるに漸くは毒あうらうらと復せむ  
アリナの時りして水賊陸賊ももを治す  
練兵をい一度爾格雜親の池部は好勝更  
敵し一尾海士ハチセ海の右敵と治しし  
は成りしうらうらとを治すしと凱経を  
はるせむらぬの年ありと則ちえみ甲年の

のころは海賊の本し兵船の備はハルとの時  
七拾二隻の敵艦は造りしと治地はあは傷を  
せむカヤリナの時軍船二百甲隻は生る軍  
士らありやのとも又も七百甲の年  
船古甲隻は七隻敵船七隻飛船甲隻は造り  
しと甲年とありは治地はあはしと甲船百艘  
船は造りしとありしと先年の武備の資  
用は年々しと二子ありありしと北桂川  
氏の勲績をい魚白田臣志くしと書す



たゞしの中への國としては新し類したる國も  
は我邦の魚をむねつらき事しきも  
此國を凡そ石炭の産地と化國後  
操りしり （カウチ） 統治せしむるも  
未丹の國に於ては （カウチ） 越化は  
つらき我邦に於ては （カウチ） 越化は  
ルツフと云ふ事 （カウチ） 越化は  
ムツカ （カウチ） 越化は  
未丹の國 （カウチ） 越化は  
書きたる事 （カウチ） 越化は  
奥に於て （カウチ） 越化は  
カムシヤツケ （カウチ） 越化は  
魚肉 （カウチ） 越化は  
いふ事 （カウチ） 越化は  
七人 （カウチ） 越化は  
いふ事 （カウチ） 越化は  
いふ事 （カウチ） 越化は

未丹の國 （カウチ） 越化は  
書きたる事 （カウチ） 越化は  
奥に於て （カウチ） 越化は  
カムシヤツケ （カウチ） 越化は  
魚肉 （カウチ） 越化は  
いふ事 （カウチ） 越化は  
七人 （カウチ） 越化は  
いふ事 （カウチ） 越化は  
いふ事 （カウチ） 越化は



























御又幸よりして表地を色へりては  
此村を稀にしてうしひ又いり文より  
あつて竹の葉をいりんをさち智れり  
きつせん大念年穀の費一も地起り  
此種いつつ海をなすうしつはあ  
ちうの備を今よりふるは舞りおの目  
あのみ葉は保つるのわらうしお件のす  
すじのぬれさるの塊へいりて  
たしゆりまはる大念年穀の費は

しき理よりしては  
國家徳福のうしをたはりけり  
此大念年穀の費よりすの持者より  
まかいらんくろんえんよの  
いぬき地よりし産を米穀  
ちとらうははりては  
産より田地の養活より  
地よりし産を米穀  
養活よりすは











その初年一二月に於ては、  
主簿の如きものありしに、  
やま國家の治政の如きものありしに、  
少くもその一に於ては、  
てい用は、  
民もとも高きこと、  
そのもの、  
政勤の、  
其の、

より我部の板図、  
し、  
瘡、

○板圖の、  
火、  
は、  
ま、  
ま、



且六行其心也 用んや少しヲロニアハセの其状  
けりしつゝもこゝろを不毛の地獄ありしは其  
地のとまを海平しよあふしは亦し心願を  
憂しとるし心願を少くせ國地をくさ由如  
地獄起し和人多く海くさ 雲集元酒し  
あきりし付ら其地を毛しけりし又魂をく  
めりしして終し豊饒みすの地くさしと  
別しと并さすし其のくさしと心願の侍り  
くさしとるし心願を少くせ國地をくさ由如

己しち魯れり 軒をくさしとるし心願を少く  
くさしとるし心願を少くせ國地をくさ由如  
地のとまを海平しよあふしは亦し心願を  
憂しとるし心願を少くせ國地をくさ由如  
地獄起し和人多く海くさ 雲集元酒し  
あきりし付ら其地を毛しけりし又魂をく  
めりしして終し豊饒みすの地くさしと  
別しと并さすし其のくさしと心願の侍り  
くさしとるし心願を少くせ國地をくさ由如

**辨** ヲロニアアハセの其状のり、前傳に其を  
いと百重不毛の地獄ありしは、ついでに  
其月ら其の地をくさしとるし心願を少く  
くさしとるし心願を少くせ國地をくさ由如



























































其地と云はる人よと云り彼カムサツカはち地よ  
 陸より廣量れ地し又子一セルホルトはよあ由ハ  
 祖難れ種類りよ也人相風俗と殊ありカラ  
 フト此島山丹あり此同族あり我邦より是と  
 海航よりよは南島地ハ別彼カムサス力あり  
 我由れ種類あり也人相と風俗と相違あり  
 此よ殊ありよ也一島よりよ音無れ子百  
 九十八年 我々之祖 あり 十一年 アタラフツと云ふ  
 陸航れあり地より此地ありよ也ありよ也人と  
 大昔海航より海陸れ難度と云ふ相ありよ也  
 其後子七百年 五百年 あり此島相ありカムサ  
 ス力小海りよ也いよ也より也傍れ島と云は  
 ころ子七百年 我々之祖 あり 十一年 あり西無不教きて  
 教ありよ也と種あり 我々之祖 あり 十一年 あり今あり  
 するよ也 我々之祖 あり 十一年 あり 我々之祖 あり 十一年 あり  
 然皮一張免あり 我々之祖 あり 十一年 あり 我々之祖 あり 十一年 あり  
 の島 我々之祖 あり 十一年 あり 我々之祖 あり 十一年 あり 我々之祖 あり 十一年 あり  
 あり 我々之祖 あり 十一年 あり 我々之祖 あり 十一年 あり 我々之祖 あり 十一年 あり











年々といふにさしにあらん此方よりせぬ守梅首しては意  
除くせんといふるを以て既ち去ん末年よりは暮ありは  
及んて彼中人の位極するも此れをを靡るる  
いづく中もと上トロフクナシリ高果れ素人の海ありて  
て松あ勢を爲れ素人よりといふるも此れをを靡るる  
指し是偏も是と爲る用わさくあつたはあつた  
さあ言ふよりいれしる者も下食とありやとて此理あり  
なありと素人此井も端へといふるも此れをを靡るる  
あはかりといふれと我れ此れ力の及ぶといふるも此れは  
是れ也なりと此我 邦より格育を化すといふるも此れ  
爲るは格育するは素人といふるも此れをを靡るる  
格育するは酒煙を爲すは法を此れに於て是飽  
しめやと格育をわ我 邦に食食用といふるも此れをを靡るる  
如く 國家に利益するといふるも此れをを靡るる  
といふるも利益といふるも此れに由る農と國人の  
其れをを靡るるも此れをを靡るるも此れをを靡るる  
此れに由る農と國人の  
利ありといふるも此れをを靡るるも此れをを靡るる







平河此姓のありん具吾西無一り我部此系教と教  
すりて極表お人よ与め此をありて彼由りあるは  
る者乃食用とあるんしとと於すりて是も系教と  
送らんよとらつとと教をひききりてあれとと吾西無一  
交るてと送つていともより害ありてありてあやむか  
極表人の於すりてのハ西極子系計法吾此教と教  
す極表とより魚食と表とすれハ系教と与りて  
及んて送つて前の系教ハ我部より性くおれ漢人及  
高貴おれ用度のありては是る為よ人口と送つて我

部此系教と減少すりて於りてはよありては彼地系教  
と送らんよとらつとと教をひききりてあれとと吾西無一

○夷狄とわらわ法周ハありて漢よりハ皆ありて漢ハ  
半より西域と并きて極表教と生一是ハ匈奴此右臂と  
引て因縁此夷狄と寒よりハ是夷と汚く制しゆて  
よき第此はありて是より一々夷人日々中より親  
く飲食嗜好の中より習い申由と善く使と保す  
魏晉より夷狄と身取すりては中国此系とより  
及よ夷狄此管子よハ禁衛此官より一々此部之親厚



夷人、意中、由、まじりて、うゝやむ心、甚し、卒、ふ、劉、淵、  
石、勅、れ、福、と、稱、し、て、中、國、と、い、は、り、し、其、民、寧、居、る、か、  
つ、南、の、朝、の、時、少、教、は、は、る、夷、種、は、り、り、唐、に、中、興、と、夷、種、  
れ、多、其、と、り、て、中、由、と、稱、す、千、け、り、る、る、夷、種、は、  
臨、揚、と、五、代、の、初、め、に、夷、種、は、天子、と、宗、と、は、は、り、又、  
夷、種、は、奪、り、し、て、え、り、て、夷、種、一、流、の、天子、と、あり、遊、び、  
ぬ、り、し、し、し、と、し、又、法、教、を、て、夷、種、の、世、と、ある、もの、  
と、い、は、れ、夷、種、と、世、に、く、中、由、れ、味、と、い、は、り、り、り、半、  
能、り、し、し、え、り、る、彼、の、中、由、と、い、は、り、り、り、り、  
心、を、し、其、時、は、多、事、と、犯、り、て、因、縁、と、念、の、こゝろ、  
故、に、は、り、り、り、り、り、り、彼、用、を、り、り、り、り、  
親、く、あ、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、  
中、國、と、い、は、り、り、り、り、り、り、り、り、  
く、民、人、と、い、は、り、り、り、り、り、り、り、  
風、を、り、り、り、り、り、り、り、り、り、  
暴、を、り、り、り、り、り、り、り、り、  
妨、を、り、り、り、り、り、り、り、り、  
其、身、を、り、り、り、り、り、り、り、



すうり年々天中と奪りつゝし極事執とわらふ  
と只病犬の如くすへ〜吾方お色付ぬと極よと云  
[釋]此編と名お無と交直〜彼中人と出るり  
と乃〜後とん〜り是いあしりあ〜彼由  
二、永く交直未嘗此極意と云〜いなるあ  
ぬとと強り〜彼國人と色つけさうと上兼とす  
申丹生ら云と云〜素より強極り極と  
其色付さられ弟彼ら〜三、白をふむ此地と  
云〜山高たらと防んとす〜いんあ強し美味あり  
と性合ら〜其味と云〜ら〜わ〜り極極と云  
ぬと〜此年極よと云〜り〜り〜り〜り〜り  
り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り  
年極よ極よ〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り  
只差あき〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り  
乃言あり彼極王の事極と云〜り〜り〜り〜り  
此れお地〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り  
事〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り  
此地と極よの事極と云〜り〜り〜り〜り〜り











急勢より前以し支港の表積中と中井生らり如  
 く兵船たの向しひのまわくハ中一第しうらう  
 けりよ我れよ中野わらよまじりて如のりてきと毎  
 のまわくハ乃宋の代のりて卒あハ天子とと食のり國  
 とと食のりてよある也一吾ら力よ中野わとのりて  
 して彼とあするああるに彼のりて我れよ中積り  
 て人よと國ととて一海をりて支表積と中野此集あ  
 るとて人れ中邪とてけり傷ひる也一内食<sup>信</sup>ある人  
 中野わくを向わあをるるとりとも傷むしや一表内  
 表ある人いすまじりてゆよ表い彼あるるり火と被  
 りたると陸中船とてりてり人として一記と珠  
 ろうりやあ一左よ民心一表よ海積りて國家の力積  
 表積りて表積の中船の也るるとたはたあやとあわく  
 國家の表ハ中野わりて國総一しひもるも表積の表積の  
 内より如うともある一人の内中あるるとあ一てハ中船と  
 積すとの中よハ第中積食と表一て中船の中積中積  
 する中よ一はあるるとまじりて中船の中とあるると中船  
 ○常備治海第一一表積のりりひとさるるとハ大よ表積















貿易はもつて也されりて其貿易の交易の形は  
切らぬし扱又よす。其地とありては病者の多くす  
魚つとるは北極の旬收れ半とつり物つよ交ふ文  
病者少くは色なるはれり。りしとるは南極の地と  
りては北極と南極と異なる體た不殊なる半也  
丹丹生る佃見なるありて高しとるは海ありて  
南極とありては洋法由れ半し此の海は由りては  
と隔つと陸地ありて南極ありては海は由りては  
南極ありては陸地ありては北極ありては海ありては  
外の島ありては海ありては陸地ありては海ありては  
収録するは海ありては陸地ありては海ありては  
山海島と接するは用とありては海ありては海あり  
とるはありては陸地ありては海ありては海ありては  
りりぬ是を海と病者と色なりとるはありては我  
邦の地ありては海ありては陸地ありては海ありては  
ありてはありては海ありては陸地ありては海ありては  
今我邦より海ありては陸地ありては海ありては海あり  
とるはありては海ありては陸地ありては海ありては































海を渡るく大船に乗るの事。いづれも

その大船に乗る事

るが易い事なり。いづれも入るに力あり。ラロ

シヤも亦易い事なり。いづれも依り大船

を乗り。亦易い事なり。いづれも亦亦易い

カあり。ラロシヤの力あり。いづれも亦亦易い

事なり。いづれも亦亦易い事なり。いづれも亦亦易い

事なり。いづれも亦亦易い事なり。いづれも亦亦易い

事なり。いづれも亦亦易い事なり。いづれも亦亦易い

事なり。いづれも亦亦易い事なり。いづれも亦亦易い

事なり。いづれも亦亦易い事なり。いづれも亦亦易い

事なり。いづれも亦亦易い事なり。いづれも亦亦易い

事なり。いづれも亦亦易い事なり。いづれも亦亦易い

事なり。いづれも亦亦易い事なり。いづれも亦亦易い

事なり。いづれも亦亦易い事なり。いづれも亦亦易い

事なり。いづれも亦亦易い事なり。いづれも亦亦易い

事なり。いづれも亦亦易い事なり。いづれも亦亦易い

事なり。いづれも亦亦易い事なり。いづれも亦亦易い

事なり。いづれも亦亦易い事なり。いづれも亦亦易い











会隊上戦死せんといふフランツィイ世君を  
考よカキ行〜シロシヤ隊上肩んとしてラ  
ロシヤ王に我カキ考知らんといふ  
エニハラトルニ~~タ~~ヨリ~~タ~~ヨリ~~タ~~ヨリ~~タ~~ヨリ  
考〜〜はフランツィイ隊上ニハラトル小隊を  
フランツィイもえんエニハラトル少らん  
軍部〜〜のれど別軍部〜〜を  
帝フランツィイ云々我カキ世君に  
〜〜シロシヤ云々シロシヤ云々

は一世君我カキのれカキシロシヤ云々  
のれも中云々せんといふ云々  
多きは我カキエル。エトル小隊カキ  
王下〜〜ハフランツィイエニハラトルよめ〜  
軍部心ニ帝フランツィイ云々ニエの軍  
カキハ我カキ〜〜甚だ大考〜〜高軍  
上肩ん〜〜カキ隊中〜〜考知らん  
軍部〜〜シロシヤ云々  
中〜〜カキ〜〜カキ〜〜カキ〜〜カキ



如美丹のらふとせし世界一萬年のこまを  
らんのかを抄くくさるのく依しフロ  
シヤフラインツイ中より此のわん早キリスの  
のるを多きしとよ軍の兵に中軍を  
軍よりフロシヤ軍船十艘ホルトガリヤの洞  
少く早キリスの船よりよりそはホルトガリ  
ヤのまにホルトガリ國地を控むアメリカの  
田バラシロヤとくしあく商人を所下路に  
是上陸し船をく遊りたりたはた  
ラインツイとらんとも早キリス少くは  
拒むたりぬけたにエウロツパは法則軍止付を  
一早キリスは山崎國として法氏法武士若  
男少百も合しつと船もとも軍船の御とよ  
少くフロシヤもフラインツイとけあはし  
まの石付若海はたあく軍地起しり  
時し常打殺せん又は掃くもけあはし  
ロシヤも少く出フラインツイより海にゆく  
しと一隊は軍船少くあはのくく















蝦夷陣中日記鈔 樋口光大

一 二人

富五郎 臣七

之新工 魯西也 俗女之貴人

男之嫁人 十之五也 夫之看生 妻の上

座之看一 夫の座之看 由是の先代女

帝の時より 勢の多し 外人之多 女之換

根之結 其先之組 之後 下ヶ西光ヶ

権 一日の桐暮 有度 後由 果の橋 上核

有之 道 測り 透 上 和 文 子 路

刺切り 日 存 坊 主 引 以 是 拾 拾 拾

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*



由是年伊勢、上幸大夏北澤、有、身、不、德、後、  
由、之、下、近、事、國、王、事、付、之、一、後、路、也、  
三、

一、銀、錢、ハ、此、方、十、文、錢、位、ト、シ、一、ハ、一、ハ、可、行、カ、  
通、チ、上、ノ、邊、ニ、形、ノ、鑄、付、由、左、ノ、用、心、錢、ハ、  
銅、カ、孔、カ、先、カ、青、森、カ、各、所、ノ、因、  
由、カ、由、徳、國、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、  
一、ハ、因、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、  
身、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、  
カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、

一、何、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、  
一、賤、カ、格、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、

一、在、事、ハ、二、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、  
一、三、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、  
一、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、  
一、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、  
一、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、  
一、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、

一、身、中、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、  
一、書、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、



由徳地よりなる他方より一僅を連ね信  
て殊の外に難う致し運徳地一人の由に回  
るよりよきなる五人の供足連は自身衆  
片に國中を早の由に一人の是れ衆れは  
明るよ合致おの打負ける事一國をさすを  
知るよを故徒何れも故者事一の中  
其為に新の自身早く一人の近づく事  
申す由

一カニサシカと公作り材木を枝子鬮に上り其  
すまの苔を掃く風を防ぎ其上を鏡に降る  
由

一刀の斬りたる用中つるの用物と申すを  
頼む格取たる由に上り高き生れに御  
人といふ組合働きの首領自ら及ん板と板を  
打に皮し切りて唯達とて女成る格  
おの由は皆一切事申  
一室中より火を焚き煙を掃く事



骨董録 白石叢書

むき かく 厚也 日本と云ふ事一万  
四千二百余里程

土宜

琥珀 香敷の銀 五鼓 打物一皮



西洋水戦聞略

煙神軍艦圖解及考例  
隔詳志文多不録

一海軍雙方將ニ戰ントス片ハ先ツ大銃彈丸ヲ擲

セサル空砲ヲ放チ船中備フル所ノ赤旗ヲ綱ニテ引  
キ揚ク退陣ノ時ハ喇叭ヲ吹テ大鼓ヲ鳴シ其旗  
ヲ引キ下クルヲ相圖トス

一水戦船十二艘ヲ備ルヲ一隊トスコレヲ名ケテフロ

トト云毎隊巨艦一艘アリコレヲアドミラールト名ク

小軍ハ半隊六艘ヲモ用フ此ヲ込トメニ隊五隊

八九隊ニモイタル



一 大軍ニ及テハ敵味方互ニ船數ニ百四十艘ヲ仕  
立スニ各廿隊ノナリ諸卒ハ皆船ノ上段ニ出張シ  
テ戰ヲ事トス一人モ船底ニ隠クルモノアレハ軍  
法ニ行フ

一 双方勝負決セテ和議ニ及フトキ互ニ使者ヲ遣シ  
馳談知議ヲ押領ノ地生捕ノ諸軍士並ニ其奪取  
リタル雜具ニ互ルニテ相互ニ返辨シテ和平ニ及フナリ  
但既ニ敵方ニテ生捕ヲ殺スハ和議トスヘナリ共  
味方ニテモ同ク殺スヲ軍法ノ例式トナスナリ

一 敵船敗軍メ降ヲ乞フハ白旗ヲ引揚ク味方ユレ  
テ見テ後ハ敵テ妨害ヲナサレテ式例トス但軍士  
等ヲ其船ニ遣シ船將ヲ我船ニ移シ乗組ノ諸卒  
ヲ生捕リ恣ニ諸兵器等ヲ奪取ルコトキ味方無  
勢ニテ到ルトモ敵兵聊カユレテ避ケ乍ケ遣背ス  
ルコトナキヲ法トス尤其空船ハ我兵乘リ取ル也  
一 味方ヨリ敵船ニ近フキ軍用ヲ辨ヤントスルコトアリ  
此時ハ脚船ニ兵士兩三人乘リ白旗ヲ建テ行  
クナリ已ニ其船端ニ至リテ接話スルニ敵軍若シ本



船ニ上ルヘシトイハ、先其敵方ノ者我脚船ニ下リ  
乗ルニト云ヘシ彼<sup>レ</sup>肯シメ此ニ来リ来ラハ我亦一人  
彼敵船ニ上リテ用辨スヘシ其用事辨シテ脚船ニ  
飯ラサル内ハ右ノ如ク一人居代リヲトルヘシ  
一我陸地ニ在リ若シ人敵船ヨリ上陸シ来リ軟言  
ヲ吐キ柔語ヲ以テ應接スルコトアリコレ必謀計ナリ  
ト知り速ニ其人ヲ驅フテ逐ニ拂フベシ  
一敵船ヨリ我陸陣ヘ使者ヲ送ルハ彼<sup>レ</sup>小船ニ乗シ  
白旗ヲ建テ喇叭ヲ吹キ或ハ大鼓ヲ鳴シ来ルコト  
込トス其使者上陸シ軍將ノ麾下ニ伴ヒ行クハ  
其使者各棉布ヲ以テ其眼ヲ覆ヒ礼宣スヘシ  
其至ル所ニ伴ヒテコノ覆中ヲ脱セシムコレ往返トモ  
ニ味方ノ地理要害ヲ見セシメサルカ為ナリ  
右軍令ノ大込ナルヘシ唯是僮ニ彼略説ヲ得ルヲ  
以テ譯述スル所ナリ聊カ彼海軍ノ式例ヲ見ル  
ニ足ルト云ヘシ

文化五年戊辰

和蘭譯司本木正榮譯述







吾國紅蓮花... 此花向... 折花... 片... 身... 相... 事... 此... 若... 其... 少... 妙... 此... 回... 其... 疾... 紙... 片...



















名優吉原新書巻之卯卯、是怪人二艘、家徳  
送る卯、其妻力江と子信と、其下志堅  
ハ列名勿依仰、上抄と家徳、方一総、徳  
一送るト、其妻力江と子信と、其下志堅  
上ノ家徳、一送るト、其妻力江と子信と、其下志堅  
洲のえ、出卯房州、家徳、一帆船、方一  
月、家徳、一送るト、其妻力江と子信と、其下志堅  
少ノ殺、川、其妻力江と子信と、其下志堅  
中軍、力江、其妻力江と子信と、其下志堅

其下志堅、其妻力江と子信と、其下志堅  
少ノ殺、川、其妻力江と子信と、其下志堅  
中軍、力江、其妻力江と子信と、其下志堅  
一送るト、其妻力江と子信と、其下志堅  
上ノ家徳、一送るト、其妻力江と子信と、其下志堅  
洲のえ、出卯房州、家徳、一帆船、方一  
月、家徳、一送るト、其妻力江と子信と、其下志堅  
少ノ殺、川、其妻力江と子信と、其下志堅  
中軍、力江、其妻力江と子信と、其下志堅



いさし屋の徳の世に物も目し作るとは  
月下ししの中 衣もく 袴もく  
いさし屋の袴もく 一色おの袴し  
水糸 衣人 高物 目く 衣もく 袴も  
衣もく 袴もく

イキリス人

黒面深目高鼻鬚髮曲卷赤黒

長六尺計

目青

ワラ

目色抄ふいふくそく丸行若く青黒  
いせ屋方角く若く目色まて  
いせ屋方角く若く目色まて

睛黒

眶深

衣圓領

袖窄束腕

衣縛褊體

衣細抄ふ中保り方、衣法換り、  
シタカニ 禪法

衣又メリヤス地のもの若く主物雜役の  
白き結の袴中、の物若く、とて羅紗と絶

繞り、若く、とて付え、トモコウ、七法、

繞り、若く、とて付え、トモコウ、七法、







人

名洋中へ舟をこし帆柱を動かす  
神庭に延柱

一 船に神の入りしつゝ船を動かす

一 羊子多く舟中徘徊しつゝ

一 舟に舟子とて在りしは

一 舟人以外も舟中徘徊しつゝ

一 舟人以外も舟中徘徊しつゝ

一 舟人以外も舟中徘徊しつゝ

一 舟人以外も舟中徘徊しつゝ

舟中徘徊しつゝ



[Blank page with a small mark in the top left corner]

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40  
41  
42  
43  
44  
45  
46  
47  
48  
49  
50  
51  
52  
53  
54  
55  
56  
57  
58  
59  
60  
61  
62  
63  
64  
65  
66  
67  
68  
69  
70  
71  
72  
73  
74  
75  
76  
77  
78  
79  
80  
81  
82  
83  
84  
85  
86  
87  
88  
89  
90  
91  
92  
93  
94  
95  
96  
97  
98  
99  
100



